

表11. 放射線による発がん

- がんのリスク要因で最大は喫煙と食物で65%,次いで感染症、アルコールなど、放射線発がんは5%以下、100mSv被ばくでがん死亡が0.5%増加、200mSv以上では線量に比例してがん確率が上昇、低線量域へは高線量域からの外挿による仮定
- 100mSv以下の被ばくで有意の発がん増加は確認されていない
- しかし、放射線の影響は確率的影響でしきい値はない(LNTモデル)と考えられ、低線量被ばくでも発がん確率は上がる、ただその影響は極めて小さく、多くの発がん要因に埋没して疫学調査では確認できない、また発がんまで長い潜伏期間(数年～生涯)が存在するので、20～50年の追跡調査が必要になる
- 同じ線量を長期間に(1年間など)浴びたときの健康影響は、1回で被ばくした際の1/2以下と予測される